

【HPにも掲載しておりますので、鮮明な画像もお楽しみください。】



ぎょう がく いち によ
行学一如
(庄農通信)

第6号 令和6年11月14日発行

山形県立庄内農業高等学校

〒999-7601

山形県鶴岡市藤島字古楯跡 221 番地

TEL 0235(64)2151 文責 酒井

<http://www.shonai-ah.ed.jp>

『校訓「行学一如」の由来』

修業（実行・実践）と修学（学問・研究）は一体であって人格形成には学習と実践のどちらも重要であり、互いに影響し合って発展していくものだという仏教の教え。創立 100 周年を記念して制定。



1 文化の祭典「庄農祭」を開催！！

11月8、9日の2日間「庄農祭」を開催し、凡そ千名の皆様からお越し頂き大盛況でした。上の大きな写真は「庄農祭」1日目に作った巨大絵。縦横5cmの色紙を張り合わせて創る絵はとて巨大なもので、平成6年度の1年生が初めて庄農祭で制作し、以来30年に渡って受け継がれ、現在は全校生と保護者、地域の皆様が力を合わせて完成させています。带状のシートに色紙を張って繋ぎ、2、3年生が総力を挙げて吊るし上げる作業も圧巻。職員玄関には歴代の写真が飾られていますので、ぜひご来校ください。



2 愛され支えられていることに感謝！！

書道部や美術部の展示、音楽部の発表や図書委員会による読み聞かせ、様々な生徒会企画等、夫々の持ち場で熱心に準備し、頑張っている子ども達を支えようとPTAの皆様が出店された「豚焼き」も大変好評で、各クラスの模擬店と共にテント村は大盛況。お陰様で全校生徒数122名の本校が御来場者凡そ千名を超える「庄農祭」を開催することができました。大成功を収められたことを生徒達は皆満足しており、自信を新たに高めることができたようです。支えて頂きました多くの皆様に厚く御礼を申し上げます。





3 「クラスパフォーマンス」で青春謳歌！！

最優秀賞は3年A組。入場から声を張り上げ、校歌も大熱唱。ダンスの構成も良く皆納得の成績です。3Bは勿論、1,2年生の発表も素晴らしい出来でした。「来年がんばる」をテーマにした一番手の2Bと「もう恋なんかしない」をテーマにした二番手の1A、そして会場全体の声援や進行担当者の軽快なコメントがコンテスト全体を下支えしてくれてのではないのでしょうか。中にはダンスが苦手な生徒もいるはずなのに皆一生懸命。責任感と勇気に満ちた生徒達です。

4 「農産品販売」も大好評！！

「庄農祭」の一般公開は10時開始。しかし、なんと9時前から御来場者の方々が集まり始め、20分には200名を超える方の長い行列。目指すは限定200食の「庄農うどん」整理券。9時30分に受け取られた方は次のお目当て（新米や野菜など）の列に並び直し、10時開始に合わせてテント村まで行進。生徒達は受付や誘導、販売など夫々の持ち場を全力でこなし、ご不便をおかけしながらも皆様に喜んで頂くことができました。来年も心よりお待ちしております。



5 「収穫感謝祭」を実施しました！！

農業高校生待望の実りの秋です。新米や果物、ネギや里芋などの野菜、手塩に掛けて育てた作物が今年も順調に育ちました。多くの方々に喜んで頂けるよう、様々な販売会を企画したり、各地のイベントに出向いたりしてお届けいたします。そのような中、各作物の生育や農業学習の状況共有、そして校内関係者の親睦を図る感謝祭を実施しました。農事報告会と芋煮会です。クラス毎に作る芋にはみな個性的。どれも美味しく、当日はたくさんの笑顔が溢れていました。



6 行くぞ全国！剣道部が準優勝！！

剣道部が県新人体育大会「男子団体」で準優勝に輝きました。決勝リーグ戦も勝利をおさめ続け、実質「優勝決定戦」となった最終戦では代表戦にもつれるギリギリの試合で惜敗。昨年は同大会で優勝しており部員達には悔しさが残ったことでしょうか、先の県総体から技も心も大きく成長しており、インターハイ出場に向けて着実に前進しています。仲間の頑張りを皆が応援しています。がんばれ剣道部。



今後の予定

- 【 11 月 】
- 27水 期末テスト（～12/2）
- 【 12 月 】
- 4水 SC相談
- 5木 立会演説会
- 11水 修学旅行（～14）
- 16月 2年生代休
- 17火 SC相談
- 19水 スポーツ大会（～20）
- 23月 終業式
- 24火 冬季休業（～1/7）
- 【 1 月 】
- 8水 始業式・課題テスト
- 9木 服髪検査
- 23木 生徒総会

【編集者コラム】・・・先輩の米が日本一を独占！！（速報）・・・

若手農家応援「鶴岡ごはん日本一」が開催され、本校卒業生松浦篤さん出品の「つや姫」が最優秀賞を獲得しました。2位、3位の押井極さんと前田恭輔さんも本校卒業生。同審査会には県内各地の若手農家が多数出品し、成分審査、専門家の食味審査に続いて、100名を超える方々が最終食味審査を行うもの。当日はファイナリスト8名が最終審査の間ステージ上で談笑しながら結果待ち。先輩のお米が日本一を独占できたことは勿論、若い方々が誇りをもって励み、交流されている姿が心底まぶしく感じられました。